



### 平成20年度図書館地区別（北日本）研修会の講義風景

12月9～12日の4日間、北海道立道民活動センター（かでの2・7）にて開催しました。

#### 目 次

|                                  |       |
|----------------------------------|-------|
| 寄稿《石狩市民図書館長 渡邊斉志氏》               | 1     |
| 平成20年度事業報告（平成20年7月以降）            |       |
| 全道図書館研究集会                        | 2     |
| 図書館地区別（北日本）研修                    | 3-4   |
| 道民カレッジ連携講座                       | 5     |
| わかりやすい健康に関する情報講座                 | 6     |
| 講演会「米国情報公開法—開かれた政府」              | 6     |
| 平成20年度の展示（平成20年7月以降）             |       |
| 図書館の本棚から～ボランティア活動を通じて～           | 7     |
| 第7回道民ホール展示                       | 7     |
| 平成20年度全国優良読書グループ表彰・優良読書グループ北海道表彰 | 8-9   |
| 平成20年度北海道立図書館協議会                 | 10    |
| レファレンスあれこれ                       | 11-12 |
| 平成21年度事業・展示計画                    | 13-14 |
| 道内図書館紹介                          | 15    |

## 公立図書館のガバナンス

石狩市民図書館長 渡邊 斉志

石狩市に出向してきてから間もなく一年が過ぎようとしている。基礎自治体における実務は初めての経験であるため、これまで体験したことがない出来事に遭遇することもあるが、中でも強い印象を受けたのが市民との距離の近さである。

公務員たるもの主権者たる市民と真摯に向き合わねばならないという点においては、地方自治体と国との間で大きな違いはないし、出向元である国立国会図書館でも、当然、図書館のサービスや事業のあり方について、利用者である議員やその他の国民からご意見を頂くことはあった。だが、そうは言ってもやはり、図書館資料の利用提供以外のことでご意見を頂戴する機会は現在の方が圧倒的に多い。このことは、石狩市民図書館が文献提供以外の事業にも大きな力を割いていることに起因する部分も少なからずあるにせよ、自治体の行政機関の運営がまさに主権者との対話の中で行われていることを物語っていると言えるだろう。

そんな中、ひとつ気がかりなのは、果たして自分は主権者の声を十分に受けとめることができているだろうか、という点である。

殊に難しいのは、主権者から寄せられた要望が受け容れ難いものであった場合の対応である。無論、ありとあらゆる要望に応えられるわけではない以上、できないことは「できない」と申し上げなければならないが、そのような場合においても、信頼関係を壊さずに——昨春に赴任してきたばかりの自分の場合には“信頼関係を新たに構築しながら”と言う方がより正確な表現だが——ノーという答えを相手に伝えるためには、答えを出すまでのプロセスも含めて、誠意を尽くさなければならないように思われる。

ともすれば、行政側の事情を説明することに一所懸命になってしまい、説得する形になってしまうこともあるが、それにより、その市民が思っていることを率直に語ってくださらなくなってしまいうようになることだけは、なんとしても避けなければならない。

また、すべての市民が図書館を利用するわけではないという点も悩ましい問題である。おそらく、多くの市町村では図書館の登録利用者は居住者の20%~30%ほどであろうが、公立図書館の運営が行政施策である以上、図書館員は残りの70%に対しても説明責任を負っているはずである。公聴活動の重要性については改めて強調するまでもないだろうが、主権者との距離に近い基礎自治体においてもこの70%の声を行政に反映させることがいかに難しい課題であるかは、多くの行政パーソンには容易に想像できるに違いない。

いずれにしても、図書館行政は、「専門家がサービスを効率的に市民に提供する」という面だけでなく、「市民とともに試行錯誤を繰り返しながらつくり上げてゆく」という面をもあわせ持っている。このふたつを両立することはもちろん容易なことではないが、公共政策のガバナンスのあり方が主権者の関与の度合いを強める方向にシフトしつつある現代においては、この課題にどのように答えるかによって主権者の満足度も、そしてまた図書館に対する評価も、大きく異なってくるだろう。

## 平成20年度全道図書館研究集会

## 「シニア世代と図書館ー公共図書館と高齢者サービスを考えるー」

業務部業務課

- 期 日 平成20年9月25日(木)、26日(金)
- 会 場 北海道庁赤れんが庁舎 2階会議室
- 参加人数 42名
- 日 程
  - 【1日目】
    - 13:00 開会式
    - 13:15 事例発表①「旭川市中央図書館の高齢者サービスーボランティアとの協働、宅配サービスを中心として」青木陽子氏(旭川市中央図書館奉仕課)
    - 事例発表②「気持ちいい！楽しい音読教室ー浦河町立図書館の高齢者サービス」小野寺信子氏(浦河町立図書館ボランティア、元浦河図書館長)
    - 14:50 講義「高齢者への図書館サービス」高島涼子氏(元北陸学院短期大学教授)
  - 【2日目】
    - 9:30 「道内図書館の高齢者サービスアンケート結果」について
    - 9:50 グループ討議・情報交換
    - 11:50 閉会式

急速に進む高齢化社会の問題を踏まえ、公共図書館におけるシニア世代の利用者とのかわり方をテーマに、開催しました。道内事例として、旭川市のボランティアと協働している宅配サービスの事例、浦河町の高齢者を対象とした音読教室の事例を伺いました。ボランティアとの関係で気をつける点や音読教室に参加している高齢者のイキイキとした様子を知ることができました。また、高島氏の講義では、高齢者への理解、心遣いの問題やアメリカの図書館での先進事例を学びました。2日目は、本集会のために事前調査した「道内図書館の高齢者サービスアンケート」の報告がされ、続いて、前日の講義や事例などを意識しながら、「これからやりたい高齢者サービス」などについて、6～7名のグループを作り討議・情報交換を行いました。

なお、集会の参加者アンケートのまとめは下記のとおりです。また、「道内図書館の高齢者サービスアンケート報告」は、当館HP(図書館向けページ)に掲載しています。

## 【参加者アンケートのまとめ】(回答数：31)

|           | 1 テーマ設定 | 2 発表について | 3 講義について | 4 グループ討議 |
|-----------|---------|----------|----------|----------|
| よかった      | 25      | 25       | 17       | 17       |
| まあよかった    | 4       | 5        | 9        | 4        |
| あまりよくなかった | 0       | 0        | 2        | 2        |
| 無回答       | 2       | 1        | 3        | 8        |

- 限定して考えたことのないテーマだったので、考えるいい機会となりました。(よかった)
- 具体的な事例を詳しくきくことができてよかった。(よかった)
- なかなか意見がまとまらなかったけど、他の都市の状況がきけてよかった。職場に戻ってまたあらためて高齢者サービスについて考えたいと思う。(まあよかった)
- 音読教室やりたい！(よかった)

## 平成20年度図書館地区別（北日本）研修 「つなげる・ひろげる・自分のまちの図書館」

業務部市町村支援課

- 期 日 平成20年12月9日（火）～12日（金）
- 会 場 道立道民活動センターかでの2・7、恵庭市立図書館、恵庭市立島松小学校
- 参加人数 55名
- 内 容

|  |                               |
|--|-------------------------------|
| 文部科学省行政説明<br>「図書館関連施策の動向について」                      | 文部科学省生涯学習政策局<br>社会教育課係長 戸田陽介氏 |
| 講義「生涯学習の理念と施策の方向」                                  | 東京学芸大学 教授 山口源治郎氏              |
| 講義「学校関係者に伝える・図書館の意義と活用」<br>演習「実技を伝える・読み聞かせ指導のポイント」 | 出版文化産業振興財団<br>読書アドバイザー 児玉ひろ美氏 |
| 講義「恵庭市の図書館施策と現状について」                               | 恵庭市立図書館 課長 内藤和代氏              |
| 施設見学「恵庭市立島松小学校図書室」                                 |                               |
| 講義「図書館経営の基本と政策立案の方法」<br>演習「政策・提言文書の作成」             | NPO 法人共同保存図書館・多摩<br>理事長 座間直壯氏 |
| 講義「地域課題の解決と地域資料」                                   | 小平市企画政策部 参事<br>(市史編さん) 蛭田廣一氏  |
| 講義・演習「“自己判断型”行政と図書館」                               | 日本図書館協会 理事 常世田良氏              |

当研修は、図書館において指導的立場にある中堅以上の司書を対象とし、図書館業務の専門的な知識・技術の習得を図ることを目的に、文部科学省が全国6地域で開催しているものです。北海道では7年ぶりの開催となり、当館が主管しました。

研修の内容としては、「つなげる・ひろげる・自分のまちの図書館」をコンセプトとし、図書館経営、地域資料サービス、レファレンスサービス、児童サービスについて、講義と演習を組み合わせました。グループ演習も織り込み、他自治体の図書館の状況を知ること、自分のまちの図書館の課題について、具体的に考えられるような内容を目指しました。また、施設見学（学校図書室）については、恵庭市立図書館の内藤氏による講義と組み合わせることで、自治体としての施策の重要性について、より強く意識できる構成としました。

受講生は皆、熱心に耳を傾け、講師に質問したり、休憩時間にも受講生同士で情報交換をする姿が多く見受けられました。

科目ごとの概要については次のとおりです。

- 講義「生涯学習の理念と施策の方向」では、「アメリカ社会に役立つ図書館の12ヶ条」を例に、日本においても、地域社会や地域住民の生活と図書館の関係性を問う視点が必要であ

る、と強調され、最近話題の課題解決支援などについても、その地域と住民の 10 年先を見すえなければ生きたものにならない、と説かれました。また、図書館員自身の学びのネットワークが重要であると助言されました。

- 講義「学校関係者に伝える・図書館の意義と活用」では、子どもと本の周辺についての基礎知識や、子どもと最も近い関係にある先生が本を手渡すことができることへの自覚を促す必要性和その方法について講義されました。
- 演習「実技を伝える・読み聞かせ指導のポイント」では、実際に絵本を紹介しながら、対象年齢を意識した選書のポイントについて説かれました。また、受講生が事前に準備してきた絵本について「読み聞かせ絵本一覧」としてリスト化し、配付しました。
- 午後からは恵庭市に移動し、講義「恵庭市の図書館施策と現状について」、そしてその現場である学校図書室を見学しました。

- 講義「図書館経営の基本と政策立案の方法」では、図書館活動を円滑に発展させていくために、サービス業務と管理的業務を単純に分業するのではなく、効率的に組み合わせ、複合化をしなければならない、と説かれました。



政策立案で重要なのは、その前段で図書館経営の目的・目標を定め、そのための仕組み、人材育成を明確にすること、また、館内の共通認識をもって、すべての住民に示すと同時に、それは行政内部に対しての意思表示でもあり、確実に自治体の基本構想・基本計画に反映させることなど、示唆に富む内容でした。午後からはグループに分かれ、演習「政策・提言文書の作成」を行いました。

- 講義「地域課題の解決と地域資料」では、地域資料サービスは地域行政サービスの根幹的かつ基本的サービスであり、地域課題の解決に地域資料が役立つという講義でした。そのための収集、組織化、提供の実例を豊富に紹介し、地域資料担当者は図書館資料全体を知り、インターネット情報を含め組織化することが必要であると説かれました。
- 講義・演習「“自己判断型”行政と図書館」では、自己判断・自己責任型社会において、物事を相対的に見るために「情報」は必要不可欠であり、様々な資料・情報を収集・提供する公共図書館が重要であること、そしてその行政支援サービスの実践例について講義されました。後半はグループに分かれ、ブレイン・ストーミング形式で演習・発表を行いました。司書としてできることは種々あり、その見返りは大きい、従来型の図書館サービスをただ続けていてはいけないと、司書の意識改革を求める内容でした。

## 道民カレッジ連携講座

奉仕部参考調査課では、平成20年度に道民カレッジ連携講座を4回開催しました。

内容は大きく分けて「暮らしに役立つ図書館活用術」と「インターネット活用術」の二つで、それぞれ基本編と応用編に当たる講座を行いました。

### ・暮らしに役立つ図書館活用術

平成20年5月23日に「基礎編」、11月20日に「応用編」を道立図書館1F研修室で行ないました。5月は図書館で行なっているサービスと暮らしに役立つ参考図書の紹介。11月は法令・判例の調べ方をテーマに図書館で扱う資料から調査する際の基礎知識を紹介しました。合わせて35名の方に参加していただきました。

### ・インターネット活用術

平成20年9月19日に「検索エンジンを上手に使う」、平成21年1月29日に「図書館員が選んだお役立ちサイト」を北海道教育研究所附属情報処理センターで行いました。9月はインターネットの検索エンジンをより効率よく利用するための検索のテクニックを紹介、1月はインターネット活用術基礎編の復習と高度な検索、



「インターネット活用術」講座の様子  
健康情報に役立つ検索方法の紹介をしました。合わせて29名の方に参加していただきました。

北方資料部では、昨年度に引き続き、講演会「資料で語る北海道の歴史」を、去る9月20日(土)に当館で開催しました。参加者は約50名。卜部信臣氏(北海道史研究協議会会員)を講師にお迎えした今回のテーマは、「**殖民地地区画図と開拓 ～長沼町、新十津川町を例として～**」。殖民地地区画図とは、明治期に北海道庁が、大量の原野(国有未開地)を計画的に処分するために、農業開拓可能な土地を事前に測量し、区画割りしたものです。当館所蔵の殖民地地区画図と、それに関する記録から、人々がどのように入植し、生活を築き市街地を形成していったのかを、空知地方を中心に、開拓の軌跡を辿りました。初期の入植者達の苦労や開拓のこぼれ話、史蹟地図、スライド等を交えての、興味深くわかりやすい講演は、非常に好評でした。



公演中の卜部信臣氏

また、図書館利用講座として、「**新聞で調べる北海道知識**」(定員10名)を、7月、10月の2回開催しました。北海道の新聞の種類や歴史・変遷、調べものに便利な参考図書類やインターネット情報、戦後の占領期に道内で発行された貴重な新聞コレクションであるプランゲ文庫の紹介、そして調べ方の実際として、当館に寄せられた質問及び回答事例を多数紹介し、便利な新聞の活用方法をご案内しました。参加者から、調査の手法や図書館の利用方法が深まった、新聞の重要性を再認識した、面白かった等の声が寄せられました。

## わかりやすい健康に関する情報講座

奉仕部奉仕課・資料課

当館では、平成 19 年に協定を結んだ北海道医療大学総合図書館と連携し、昨年に引き続きコメディカルスタッフや一般市民に向けた健康情報の入手方法を解説する「わかりやすい健康に関する情報講座」を共催しました。場所は北海道医療大学札幌サテライトキャンパス、期日は 8 月 21 日(木)と 12 月 2 日(火)の 2 回開催し、1 回目 40 名、2 回目 71 名が参加されました。

1 回目は、北海道医療大学薬学部唯野貢司教授が「やさしい薬のはなし」をテーマに、薬が誕生するまでの話や薬の飲みあわせなど、様々な薬のことについて講演を行いました。続いて、北海道医療大学学務部次長平紀子氏、科学技術振興機構情報提供部係長火口正芳氏が医療系大学図書館を活用した健康情報の入手方法と医療系データベースの活用について、当館奉仕部奉仕課主査工藤嘉一が公共図書館の資料と活用法について紹介しました。

2 回目は、北海道医療大学看護福祉学部阿保順子教授が「認知症の新しいアプローチ」をテーマに、人が老いるということはどういうことか、また認知症の社会的位置づけ、共同体のあり方、生活を支える方法について講演を行いました。続いて健康情報を入手するための図書館活用術について、北海道医療大学学務部次長平紀子氏、科学技術振興機構情報提供部係長火口正芳氏、当館奉仕部資料課主任小川靖子がそれぞれの立場から紹介しました。

アンケートによると、参加者の満足度も高く、充実した講座になりました。平成 21 年も、9 月 2 日、12 月 2 日の 2 回の開催を予定しています。

## 講演会「米国情報公開法－開かれた政府」

(在札幌米国総領事館【札幌アメリカンセンター】共催)

業務部業務課

平成 11 年に制定された「情報公開法」は、「米国情報公開法」をモデルにしたと言われます。この「米国情報公開法」の法律事情に詳しいメレディス・フュークス氏(ジョージ・ワシントン大学)が来日したのを機に、氏を講師とする「米国情報公開法－開かれた政府」と題する講演会を実施し、図書館関係者が情報公開の問題について考える機会としました。

平成 20 年 9 月 23 日(火) 15 時から 17 時まで、ホテルライフオーツ札幌にて開催。

講演は、逐次通訳付き。モデレーター[司会]の会沢亘氏(北海道大学法学部准教授)のコメントをはさみながら進行し、最後の質疑応答で閉幕しました。参加者は 26 名で、図書館職員ほか、大学、行政関係者の姿も見られ、また、質疑の時間には質問が相次ぐなど、この問題に対する関心の高さがうかがわれました。

当館からは情報提供として「情報公開法関連の資料リスト」を作成、配布しました。

## 平成 20 年度の展示

奉仕部奉仕課・北方資料部

### ■ 図書館の本棚から ～ボランティア活動を通じて～



期日：平成 20 年 11 月 14 日（金）

～12 月 28 日（日）

会場：2F 閲覧室

当館でボランティアの方々による活動が始まって 5 年になります。

現在は、返却された本の配架や郷土資料の整理、資料展示などを行なっています。

3 年ほど前より、こういった活動

の中で出会った面白い本、懐かしい本を紹介していただく展示を行なっています。展示の際には、本とともに選んだ方の紹介文も併せて展示しています。今年はやや少なく 10 冊の展示となりましたが、幅広い分野から紹介され、期間中何度も借りられる本もありました。[\(展示した本の一覧は当館ホームページにて公開しています。\)](#) (PDF ファイル)

当館には約 87 万冊の本がありますが、普段目にふれることの少ない本を様々な視点から紹介できるように、今後もボランティアの方々とは協力しながら展示を行っていきたいと思います。

### ■ 平成 20 年度 第 7 回道民ホール展示

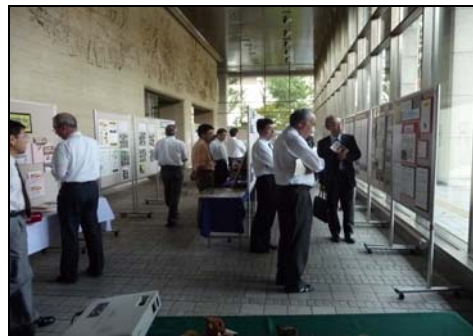
「使ってみませんか 道民の本棚～北海道立図書館 利用案内展～」

期日：平成 20 年 10 月 23 日（木）～24 日（金）

会場：北海道庁 1F 道民ホール

今回は、今まで行ってきた所蔵資料展ではなく、利用案内展という初めての試みでした。悪天候にもかかわらず、両日あわせて 531 人の来場者がありました。

会場では、パネルで当館の機能や役割などについて紹介しました。今回の展示では、貸出以外にも様々なサービスを行っていることや、図書館が相互に協力し合っていることを紹介することができました。しかし、まだ、道立図書館の存在を知らない、場所がわからないという方も多く、PR の重要性を実感しました。「今後は道立図書館を利用したい」という感想をいただいたことが一番の収穫でした。



## 平成 20 年度全国優良読書グループ表彰・優良読書グループ北海道表彰

北海道読書推進運動協議会

(社) 読書推進運動協議会では、「読書週間」事業のひとつとして、毎年、全国優良読書グループ表彰を実施しています。それに合わせ、当会でも、独自に北海道表彰を行っています。今年度の受賞グループを紹介します。

### **全国表彰** おはなしサークルたんぽぽ 当別町 昭和 61 年設立

親子で会員になり、子どもが保育所に入所すると“卒業”となるため、メンバーの入れ替わりは他のサークルより頻繁ですが、創設時のメンバーたちの情熱が、20 年以上たった今も伝えられています。毎週 1 回のおはなし会のほか、グループ結成当初から主催する「絵本に親しむ講演会」には 200 名を超える人たちが集まり、世代交流の場ともなっています。

### **北海道表彰** おもちゃばこ 恵庭市 平成 5 年設立

ミュージックパネルを中心に、市立図書館での活動を基本に、「としょかんこどもまつり」やブックスタートにも参加しています。気負わず、できることから、楽しんで、おばあちゃんになっても続けていきたい、これからは老人ホームなどにも出かけていきたい、と意欲的なグループです。

### **北海道表彰** お話ポケット 厚沢部町 平成 14 年設立

厚沢部小学校の保護者が中心になって立ち上げ、主に小学校で活動しています。メンバーが集まって絵本を選ぶのが、とても楽しい時間。町民文化祭や保健福祉課の「さわやか教室」にも出かけており、これからは大型絵本などの手づくりに挑戦したい、とチャレンジ精神が旺盛なグループです。

### **北海道表彰** 東小学校 PTA 読み聞かせボランティア「おはなしの会」 滝川市 平成 15 年設立

滝川市立東小学校の保護者を中心に、絵本の好きな人が集まって、小学校で読み聞かせをしています。それぞれ得意なものを活かして、絵や裁縫が得意な人たちはペーパーサートやパネルシアターを作ったり、絵本に合わせて即興で曲を弾いたりするメンバーもいます。学校以外でも、市立図書館や中空知地域のイベントに参加するなど活動の場が広がっています。

### **北海道表彰** おはなしポケット 釧路市 平成元年設立

「ドラえもののポケットみたいに、どんどん夢のあるおはなしが出てくるポケットを作ろう！」と結成したグループです。阿寒町公民館図書室での週 1 回の読み聞かせのほか、学校や養護老人ホームでも活動しています。大型紙芝居などの制作も行っています。



〈 おはなしポケット 活動風景 〉

**北海道表彰** **日本よもう！どらねこ倶楽部** 池田町 平成13年設立

小学校、保育所、地域活動支援センターで読み聞かせを行っています。その他に月に1回集まり、活動報告や本の紹介をしあったり、「どらねこしんぶん」を発行したり。町外との交流を積極的に行い、単発でイベントを企画・主催することもあります。これからも、子どもたちが自分だけの物語に出会えるよう、“お話の種”をまく活動を続けていきます。

**北海道地域活動振興協会理事長賞** **絵本交流会** 当別町 昭和63年設立



〈 絵本交流会 活動風景 〉

全国表彰を受賞した「おはなしサークルたんぽぽ」を卒業したお母さんたちが結成したグループです。絵本の大切さを次の世代に伝えたいと、保育所2か所と小学校、デイ・サービスセンターなどで読み聞かせを続けています。親子で参加できる場として、コミュニティ・センターでの活動を大切にしています。

**北海道地域活動振興協会理事長賞** **マザーズぽけっと** 今金町 平成15年設立

ブックスタート、幼稚園、小学校、介護老人福祉施設、いまかね図書まつりの企画・運営…すべての年齢層を対象に活動を展開しているグループです。町の読書推進の施策と重なって、どんどん活動の場が広がっています。平成22年に今金町で開催される「北海道子どもの本のつどい」を、今からとても楽しみにしています。

**北海道地域活動振興協会理事長賞** **おはなしじゃんけんぽん** 月形町 平成6年設立



月形町図書館での月1回のおはなし会を中心に、小学校や幼稚園、高齢者のつどい等でも、出前のおはなし会を行っています。読書イベント「月形おはなしたまてばこ」を主催し、その達成感が大きな活力源となっています。受賞を機に周囲から励ましの言葉が多数寄せられ、気持ちを新たにしています。

〈 マスコットキャラクターのぽんちゃん 〉

## 平成 20 年度北海道立図書館協議会

業務部業務課

本年度は、協議会委員の改選の年にあたり、11月1日に10人の委員が就任しました。委員については、従前の「学校教育関係者」「社会教育関係者」「学識経験者」の3区分から、平成20年6月図書館法改正を踏まえ「家庭教育向上に資する活動を行う者」を加えた4区分からの選任となっています。

なお、委員のうち一部は、公募（公募期間8月1日～8月31日）したところであり、応募者の中から2人が選任されております。

就任した委員は、次のとおりです。（任期は平成22年10月31日まで）

| 氏名    | 適用区分    | 備考            |
|-------|---------|---------------|
| 貴戸和彦  | 学校教育関係者 | 新任            |
| 西村元   | 〃       | 新任            |
| 吉田真弓  | 社会教育関係者 | 再任（H18.6.21～） |
| 横山一男  | 〃       | 再任（H20.6.26～） |
| 臼渕ひとみ | 家庭教育関係者 | 新任            |
| 五十嵐憲子 | 〃       | 新任、公募         |
| 河野博光  | 学識経験者   | 再任（H16.11.1～） |
| 下田尊久  | 〃       | 再任（H18.11.1～） |
| 高原一隆  | 〃       | 新任            |
| 小杉元一  | 〃       | 新任、公募         |

平成20年度における協議会の会議については、次のとおり開催しました。

- ・ 第1回 平成20年7月29日（火）北海道立図書館研修室  
議題（1）平成19年度業務実績について  
（2）平成20年度業務の取組について  
（3）その他
- ・ 第2回 平成20年11月28日（金）北海道立図書館研修室  
議題（1）会長及び副会長の選出について  
（2）道立図書館の活動状況について  
（3）道立図書館の利用者アンケートについて  
（4）その他
- ・ 第3回 平成21年3月5日（木）北海道立図書館会議室  
議題（1）平成21年北海道立図書館運営計画（案）について  
（2）その他

## レファレンスあれこれ

北方資料部

### 〈墨塗り？その下には何が？〉

「道立図書館のマイクロフィルム『樺太日日新聞』(昭和9年10月9日)の記事を複写したところ、黒い墨塗りのような箇所があった。墨塗りなのか汚れなのか知りたい。その箇所に何が書かれているのかも知りたい」という質問です。



照会のあった新聞紙面

依頼者が持参した複写物を確認すると、一見汚れて見えてましたが、レファレンスに先入観は禁物です。まず、国立国会図書館の「全国新聞総合目録データベース」(<http://sinbun.ndl.go.jp/>)で検索すると、他館で所蔵しているいずれのマイクロフィルムも、すべて当館と同じ製作会社のもので同じ内容であることがわかりました。

そこで、念のため製作会社のホームページで確認したところ、「・・・このマイクロフィルム版は、国立国会図書館と北海道大学附属図書館の原紙をすべて調査し相互に欠号調査を行いマイクロフィルムに一体化したものです。」とあり、この該当日も国立国会図書館、北海道大学附属図書館のどちらにも原紙が所蔵されているとわかりました。

それで両方の図書館に、「マイクロフィルム化された該当記事は貴館所蔵資料か」「黒い箇所は墨塗りか汚れか」「何が書かれているのか」について問合せをしました。双方からの回答で、「どちらの原紙も黒い箇所は汚れではなく墨塗りである。マイクロフィルム化されたのは墨塗りされている範囲の違いから、北海道大学附属図書館の原紙である。」ことが判明しました。何が書かれているのかはどちらも判読し難い箇所がありましたが、両方を照らし合わせることで概要が判明しました。

マイクロフィルムは閲覧・複写などの利用に便利で、当館でも利用の多い資料ですが、今回の事例では原紙が保存されており、該当部分を直接確認できたことで回答にたどりつくことができました。あらためて原資料の保存の大切さと、後世に残すための図書館の責任を考えさせられました。

## 〈実業家の足跡とデジタルライブラリー〉

「夕張出身の実業家でエジプトへ行って成功したという〈南部憲一〉について知りたい」

まず、人名辞典類で探しましたがまったくみつかりません。インターネットの検索エンジンで人名と地名で検索をしてみると、神戸大学附属図書館デジタルアーカイブ「新聞記事文庫」

(<http://www.lib.kobe-u.ac.jp/sinbun/>) で公開されている①『国民新聞』(昭和4年4月13日)の記事「スエズ運河の彼方に吐くや万丈の気炎 僅か三十四歳で五百万長者を誇り、八阪丸金塊引揚げには自ら采配 南部憲一君のことども」と、②PDF版『日本とアラブ 思い出の記(その2)』(田村秀治/〔述〕 日本アラブ関係国際共同研究国内委員会事務局 昭和56)

(<http://www.econ.hit-u.ac.jp/~areastd/japan-arab/japan-arab-2.pdf>) 中の「アラブ諸国との古い関係回想」という講演録に、第一次大戦前後のエジプト在留日本人として10行ほどの「(三)、南部憲一」の項がヒットしました。これらから、南部氏の略歴をある程度知ることができますが、更に調査を進めました。『国民新聞』の記事の中に「・・・勲五等を授けられる・・・」の記載があるので、『特別叙勲類纂』(総理府賞勲局)を見ましたがみつかりません。同記事中に「・・・シンガポールコロomboに支店を設置・・・」とあることから当時の資料で確

認したところ、シンガポール マレー『新嘉坡と馬來半島』(野村貞吉/著 宝雲舎 昭和16) マレー ショウナントウ『馬來及 昭南島』(南方産業調査会/編 南進社 昭和17)の中に「南部商会」の記載があり、その頃までは氏が起こした南部商会は存在していたと推測されます。『日本とアラブ』の中に「・・・その後ポートサイドの店を実兄に委かし帰国してしまいました。」の記載がありましたが、帰国後の足取りはまったくわかりませんでした。その他『夕張市史』『海を越えた日本人名事典』『大宅壮一文庫雑誌記事索引総目録』等も調査しましたが、手がかりはまったくありませんでした。以上のとおり調査結果を回答し、インターネットが見られる環境とのことでしたので記載箇所をネット上で見ていただくことになりました。

また、別件のレファレンスですが、ある絵図・古地図を探していたところ、所蔵館がデジタルライブラリーで公開していたので、利用者自身での確認を勧め完了しました。

これらの照会は、デジタルライブラリーで公開されていたことによって、利用者に自宅のパソコンのネット上ですぐに見ていただくことが可能でした。特に貴重な絵図・古地図類については、所蔵館が判明しても一般公開されていない場合があるので、利用者がネット上で見ることは、デジタルライブラリーの大きな利点です。

なお、当館でも平成22年の公開を目指してデジタルライブラリーの構築を計画しております。

## 平成 21 年度 事業予定一覧表

| 月  | 上 旬   | 中 旬   | 下 旬   |
|----|---|---|---|
| 4  |   |   | 子ども読書の日(23日)<br>こどもの読書週間(4/23～5/12)<br>北道振理事会・総会(24日、札幌市)                             |
| 5  |   |   | 道民カレッジ連携講座(21日)<br>北読進協総会(札幌市)  |
| 6  | 北海道図書館新任職員研修会(当館)   | 北道函連 北日本図書館大会<br>(11～12日、山形市)                   | 道民カレッジ連携講座(25日)   |
| 7  | 北海道図書館中堅職員研修会(当館)<br>第1回北海道立図書館協議会  |   | 道民カレッジ連携講座(20日)   |
| 8  |   |   |   |
| 9  | 道民カレッジ連携講座(医療大共催セミナー)(2日)   | 北道振 北海道図書館大会<br>(10～11日予定、札幌市)                  |   |
| 10 | 全道図書館研究集会(札幌市)<br>北道函連 総合・経営部門研究協議会<br>(9日、秋田市)                             |   | 日図協 全国図書館大会<br>(30日、東京都千代田区)<br>読書週間(10/27～11/9)<br>文字・活字文化の日(27日)<br>北読進協 優良読書グループ表彰 |
| 11 | 北学図 北海道学校図書館研究大会<br>(5～6日、釧路市)  |   | 第2回北海道立図書館協議会   |
| 12 | 道民カレッジ連携講座(医療大共催セミナー)(2日)<br>北学図 青少年読書感想文全道コンクール及び北海道指定図書読書感想文コンクール(6日、札幌市) |   |   |
| 1  | 北学図 北海道学校図書館研修講座<br>(5～7日、札幌市)  | 日図協 全国公共図書館総合・経営、<br>サービス部門研究集会<br>(14～15日、新潟市) |   |
| 2  |   |   |   |
| 3  | 第3回北海道立図書館協議会   |   |   |

事業は予定であり、変更することがありますので、ご了承ください。

## 平成 21 年度 展示予定一覧表

◆ 平成 21 年度展示案内

当館では、1階エントランスホール、中2階北方資料室入口で展示を行なっております。  
平成 21 年度は次のとおり計画しております。

| 月           | 1階エントランスホール       | 中2階北方資料室                |
|-------------|-------------------|-------------------------|
| 4月          | 「タネまき」から<br>はじめよう | 応援します！北海道企業             |
| 5月          |                   | 知っていますか？<br>北海道の“ご当地〇〇” |
| 6月          | 雑誌に見る広告の変遷（仮）     | 北海道の産業遺産                |
| 7月          |                   |                         |
| 8月          | 図書館の話（仮）          | 三浦綾子展                   |
| 9月          |                   |                         |
| 10月         |                   |                         |
| 11月         | 坂本竜馬展（仮）          | 食料供給基地・北海道              |
| 12月         |                   |                         |
| 平成22年<br>1月 | SF映画の世界（仮）        | 札幌農学校の人びと               |
| 2月          |                   |                         |
| 3月          | 北海道の火山            |                         |
| 4月          |                   |                         |

これらのコーナーのほかにも、北方資料室内、閲覧室（窓辺の本棚）、児童コーナー、開架書庫などで随時展示を開催します。毎月の展示につきましては、当館ホームページ「今月の展示」で紹介しています。

### 北海道立図書館

Hokkaido Prefectural Library

〒069-0834 江別市文京台東町4-1  
TEL:011-386-8521 FAX:011-386-6906

トップページ
蔵書検索
施設案内
利用案内
交通案内
開館カレンダー
刊行物
図書館リンク
道内図書館
レファレンス
図書館向け

図書館向け

インターネット  
予約貸出サービス

予約照会

貸出照会

パスワード変更

メールアドレス変更

個人情報保護

携帯版トップ

今月の展示

展示目録

刊行物

会北方資料室のご案内

**インターネット予約貸出サービスをご利用の方へ**  
当館および受取館の休館日（蔵書点検等で臨時休館もあります）や**発送日**をご確認の上、余裕をもってお申込みください。  
（道立図書館の開館カレンダーはこちら、受取館の休館情報は**こちら**、当館から受取館への発送日は**こちら**（図書館向け）>トピックス>貸出資料発送日）

**イベント**

**来館利用者向けの「インターネット資料検索講座」のお知らせ**  
今年も「インターネット資料検索講座」を開催しています。土日、祝日を除く希望の時間に合わせて楽しく便利な利用方法を学ぶことができます。受講料は無料。希望日の1週間前までにお申し込みください。詳しくは**こちら**をご覧ください。

「図書館イベント情報★北海道」  
研究会、講演会などの情報を掲載しています。イベント情報も募集中です。

**刊行物**

北海道立図書館レファレンス通信「**Do-Re**」第98号」を発行しました。（H21.2.24掲載）

「北誌進捗だより」第17号」を発行しました。（H21.2.6掲載）

「北の資料 No.121（阿部家文書目録）」を発行しました。（H21.1.29掲載）

## 道内図書館紹介

平成 20 年度に移転のあった図書館について紹介します。

### 遠軽町図書館

平成 20 年 12 月 20 日に、元生協の建物を改装し、移転しました。

郵便番号：099-0416

住 所：遠軽町大通南 4 丁目 1-20

電話番号：0158-42-3632

開館時間：火～日 午前 9 時 30 分～午後 6 時 30 分

### 新ひだか町三石図書館

平成 20 年 10 月 15 日に、前年度末に閉園した三石幼稚園を改修し、三石郷土館（2 階）から移転しました。

郵便番号：059-3108

住 所：日高郡新ひだか町三石本町 171-1

電話番号：0146-33-2051

開館時間：火～土 午前 10 時 30 分～午後 5 時 30 分

### 壮瞥町図書室

平成 21 年 1 月 6 日に、壮瞥町役場と隣接する地域交流センター「山美湖」の新設に伴い、地域交流センター内に移転しました。

郵便番号：052-0101

住 所：有珠郡壮瞥町字滝之町 287 番地 1

電話番号：0142-66-2131（教育委員会）

開館時間： 月 午前 9 時～午後 5 時（祝日と重なるときは休館）

火～金 午前 9 時～午後 6 時

土・日・祝日 午後 1 時～午後 6 時

#### 北海道立図書館報 第 186 号

平成 21 年 3 月 27 日発行

北海道立図書館長 加瀬 康郎

江別市文京台東町 41 番地

TEL 011-386-8521（代表）

ダイヤルイン 386-8531（業務部）

386-8522（奉仕部）

386-8523（北方資料部）

FAX 011-386-6906

E-mail：gyoumu@library.pref.hokkaido.jp

HP：http://www.library.pref.hokkaido.jp